広島大学平和科学研究センター

Newsletter

２０１６年

〒730-0053 広島市中区東千田町 1-1-89
tel: 082-542-6975　fax: 082-245-0585
email: heiwa@hiroshima-u.ac.jp
http://home.hiroshima-u.ac.jp/heiwa

戦後７０年＋１

広島大学平和科学研究センター長
（前国際連合日本政府代表部　特命全権大使）
西田　恒夫

2016 年 5 月オバマ米国大統領の広島訪問が実現しました。

戦後 70 周年の翌年 G7 サミットの機会を利用しての米国現職大統領による初めての広島訪問でした。広島をはじめ日本における評価は総じて好意的、肯定的なものであり、また米国の反応も、事前の米国有力紙における積極的な報道もあり、バランスのとれたものでありました。異例な大統領選挙の渦中にあって、不必要な反応がありうるのではないかという懸念は杞憂で終わりました。

もちろん、レイムダック化したオバマの声明にいかなる実質的な意味があるのか、トランプが、喝破したごとく、「謝罪」さえしなければ、オバマがどこに行こうが構わない、といったシニカルな見方もありますし、たしかにこのオバマ訪問が直ちに核軍縮交渉に現実的なインパクトを与える可能性はまずはないでしょう。

しかしながら、オバマ声明で力説されている如く、日米関係の発展、成熟のために、両国において戦後営々と積み重ねられてきた不断の努力こそが、がかかる歴史的訪問を実現し、そして予想を上回る積極的な結果をもたらしたことは疑問の余地がありません。

その努力は、単に政府間の努力ではなく、ビジネス、大学、NGO などを含む広範な市民社会の日々の活動の集積に違いありません。

また、言うまでもありませんが、オバマ訪問が、ヒロシマのメッセージ発信のために 70 年間に亘り一貫して粉骨砕身してこられた被爆者をはじめとする皆様にとっての絶対の重みは、余人のいかなるコメントも超えるものがありましょう。ここにこそ、オバマ広島訪問の真の意義があるのかもしれません。

シンボリズムが、現実の政治外交にとって意味があるとすれば、それは、それまでに至る多くの先人の献身と実績及びこれから将来に向かっての私たち自身の更なるコミットメント

という裏付けの有無次第であります。

戦後 70 周年の 2015 年は、われわれ平和科学研究センターにとって実りある重要な年でありました。前年の経験を踏まえ、夏と秋に 2 回の国際シンポジウムを成功裏に開催することができました。テーマは一貫して、１）混沌たる国際社会が直面する困難な諸課題解決のために、国連など国際機関を如何に強化すべきや。外交は有効に機能するのか。

２）われわれがその一部であるますますグローバル化していく国際村において、私たち市民社会はいかなる役割を果たす力と責任があるのか、その可能性の追求と政府など他のプレイヤーとの協力をいかに推進すべきや。

決して容易でない、あるいは解のないトピックかもしれません。しかし、世界の一流の講師と熱心な聴衆の皆様のおかげで、その議論は、広がりと深さを増してきていると実感しています。

世界の大学、研究所とのパートナー探し、ネットワークの拡大強化にも引き続き努力を傾注してきました。新たな友人、古い知己との協働を最大限活用し、研究会やその他のセンターの活動の活性化に反映させていきたいと考えています。

オバマ大統領広島訪問で始まった本年度、センターは私が就任して 3 年という一つの節目を迎えます。大きくうねる世界にあって、しっかりと焦点を定め、同時に広くかつ柔軟な発想を持って、一歩一歩進んでいく決意です。

センター教職員一丸となって努めますので、皆様の力強い応援をお願いします。

2016 年 6 月

2015 年度平和科学研究センター活動

シンポジウム

○2015 年度第 1 回広島大学平和科学研究センター主催国際シンポジウム

「恒久的な平和への取組みと市民社会の可能性―核廃絶に向けた 70 年の軌跡と今後」

（2015 年 7 月 28 日）広島国際会議場ヒマワリにて開催

＜第 I 部　核廃絶に向けた努力の軌跡＞

Ertuğrul Apakan（OSCE ウクライナ特別監視団代表／元国連トルコ政府常駐代表）

河東哲夫（Japan-World Trends 代表／元在ウズベキスタン・タジキスタン大使）

中村吉利（外務省軍縮不拡散・科学部審議官）

友次晋介（広島大学平和科学研究センター准教授）

＜基調講演＞

Surakiart Sathirathai（タイ王国元副首相／APRC 議長／AsianSIL 理事）

＜第Ⅱ部　市民社会の可能性とグローバルな平和への展望＞

櫻井本篤（Japan Society 理事長）

坂東眞理子（昭和女子大学長）

Brian Finlay （スティムソン・センター副所長）

薬師寺克行（東洋大学教授）

○2015 年度第 2 回広島大学平和科学研究センター主催国際シンポジウム
「グローバルガヴァナンスと多国間主義の新たな地平」
（2015 年 10 月 16 日）広島大学東広島キャンパスにて開催
＜第 I 部　グローバルガヴァナンスの新たな展開と課題への挑戦＞
猪口孝（新潟県立大学学長）
相川一俊（外務省総合外交政策局軍縮不拡散・科学部長大使）
西谷元（広島大学副学長（国際担当））
＜基調講演＞
Vuk JEREMIĆ（CIRSD 代表／第 67 回国連総会議長）
＜第 II 部　持続可能な未来と人間の尊厳の達成に向けて＞
木曽功（広島大学平和科学研究センター特任教授／内閣官房参与／前ユネスコ大使）
田村政美（外務省国際協力局地球規模課題総括課長）
小倉亜紗美（広島大学平和科学研究センター助教）

研究会

第 203 回研究会（2015 年 6 月 29 日）
今中哲二（京都大学原子炉実験所　助教）
「チェルノブイリとフクシマ～似ているところと違っているところ～」
第 204 回研究会（2015 年 10 月 2 日）
和田龍太（株式会社三井物産戦略研究所　北米・中南米室 研究員）
「アメリカーキューバ国交正常化の意味」
第 205 回研究会（2015 年 11 月 2 日）
Dr. Erik Melander（ウプサラ大学平和紛争研究学科　教授）
「Gender and Masculine Honor Ideology：Why They Matter for Peace?」
第 206 回研究会（2016 年 2 月 2 日）：広島大学平和科学研究センター講演会
東大作（東京大学大学院総合文化研究科准教授）
「平和構築における正統性樹立の課題～研究と実践の経験から～」
第 207 回研究会（2016 年 2 月 26 日）
佐橋亮（神奈川大学 法学部准教授）
「アメリカと中国：東アジア秩序の行く末」

出版物

○『広島平和科学』（第 37 号、2016 年 3 月）
○研究報告シリーズ（和文）
No.52 平和科学研究センター（編）
『2015 年度第 1 回広島大学平和科学研究センター主催国際シンポジウム
恒久的な平和への取組みと市民社会の可能性−核廃絶に向けた 70 年の軌跡と今後』
No.53 平和科学研究センター（編）
『2015 年度第 2 回広島大学平和科学研究センター主催国際シンポジウム
グローバルガヴァナンスと多国間主義の新たな地平』

外部資金等受入状況（2016 年度）

＜科学研究費補助金：代表＞

研究代表者：川野徳幸

応募分野：平成 27-30 年度科学研究費補助金基盤研究（B）

研究課題：被ばく被害の国際比較研究：セミパラチンスク、チェルノブイリ、広島・長崎、福島

補助金額：14,010,000 円（H27-30 年度総額）

＜科学研究費補助金：分担＞

川野分担

平成 26-29 年度科学研究費基盤研究（A）（2,980 万円）『カザフ核実験場周辺住民の放射性降下物被爆の実態解明－線量評価及び健康影響解析－』、研究代表者：星正治

平成 26-29 年度科学研究費基盤研究（B）（1,010 万円）『世界の核災害における後始末に関する調査研究』、研究代表者：今中哲二　*直接経費のみ

平成 26-28 年度科学研究費基盤研究（B）（1,220 万円）『広島における核・被ばく学研究基盤の拡充に関する研究』、研究代表者：小池聖一　*直接経費のみ

平成 26-28 年度科学研究費基盤研究（C）（320 万円）『コンピュータを使った『カンタベリー物語』Hg，EI 写本及び刊本の比較と分析』、研究代表者：中尾佳行　*直接経費のみ

平成 27-29 年度科学研究費基盤研究（C）（350 万円）『コンピュータによる『カンタベリー物語』諸写本と印刷本の計量的比較』、研究代表者：地村彰之　*直接経費のみ

友次分担

平成 27-29 年度科学研究費基盤研究（B）（1,230 万円）『冷戦期欧米における「核の平和利用」の表象に関する研究』、研究代表者：木戸 衛一　*直接経費のみ